

専門部会報告

第4期産業振興計画の総括と第5期計画の取り組み
に対する意見について

1	農業部会	1
2	林業部会	2
3	水産業部会	3
4	商工業部会	4
5	観光部会	5

農業部会報告(産業成長戦略／農業分野)

1. 専門部会での評価と主な意見

農業分野では、第4期計画の取り組みにより、IoPクラウド「SAWACHI」の本格運用が始まり、出荷・環境データの収集やデータを活用した営農支援による増収といった成功事例が見られるなど、農業のデジタル化による生産性向上の効果が出てきているところであり、十分に評価できる。

農業分野の令和6年度上半期の進捗状況及び強化の方向性については、この方向性で進めることについて異議はなく、次の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

【主な意見】

- (1) 生産力の向上と持続可能な農業による産地の強化
SAWACHIの利用者数の伸びが目標に届いていないため、現場での成功事例を横展開していく必要がある。
- (2) 中山間地域の農業を支える仕組みの再構築
中山間の基幹産業である「畜産業」や「お茶」にも支援をいただきたい。
- (3) 流通・販売の支援強化
末端の消費者に対しては、実際に農産物が生産されている現場の雰囲気や伝えたり、農産物の匂いや触った時の感触など五感に訴えるようなPRが大事。
- (4) 多様な担い手の確保・育成
若い女性が結婚、出産し、子育てをしていく課程で、農業だけではなく、もっと手厚い生活全般を支援するような全体的な取組をアピールすることが必要。
- (5) 農業全体をけん引する基盤整備の推進と優良農地の確保
耕作放棄地の雑草管理について、放置しておくこと、害虫の発生源となり対応に苦慮している。県として対策を検討していただきたい。

林業部会報告(産業成長戦略／林業分野)

1. 専門部会での評価と主な意見

林業分野では、第4期の取り組みなどにより高性能林業機械の導入が進むなど生産体制が強化され、原木生産量は増加傾向にある。また、各種相談会の開催や林業大学校での研修実施などにより林業就業者数を横ばいで維持しており、一定の効果が出ている。

林業分野の令和6年度上半期の進捗状況及び強化の方向性については、この方向性で進めることについて異議はなく、次の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

【主な意見】

(1) 担い手の育成・確保について

- ① オンライン開催のフォレストスクールに参加したが、ほとんどの方が顔出しNGで発言もなかった。気軽に参加可能で集客力のあるオンラインも良いが、就業につなげるには対面の機会も必要。
- ② 林業大学校の教育システムはかなり完成されてきていると感じるが、卒業後、生徒との関係が途絶えてしまうのがもったいない。就職後も継続的なフォローやキャッチアップができるような研修のシステムを組めないか。

(2) 大径材の活用について

- ① スギの大径材が増えているが、県内では大径材の取引先が少ない。今後は大径材を挽ける製材工場が必要。

(3) 木材利用の拡大について

- ① アメリカでは2×4（ツーバイフォー）材が不足しており、ヨーロッパなどから輸入している。日本も絶好のチャンスであり、アメリカに輸出して利益を出すようにしてはどうか。
- ② 公共建築物において、木造化できる種類の建築物がまだまだある。木造化の推進に向けて、さらなる働きかけが必要。

(4) 現場のニーズへの対応について

- ① 今後、女性労働者や外国人労働者が増えてくると、いかに軽労化するかということが大事になる。機械化で軽労化されるとは言うものの、実際には、ニッチな要望が現場にはたくさんあふれていると思う。そうした声を国の研究機関につないでいくことが大事。

水産業部会報告(産業成長戦略／水産業分野)

1. 専門部会での評価と主な意見

水産業分野では、第4期計画の取り組みにより、高知マリンイノベーションによる水産業のデジタル化や、県外・国外への販路開拓、新規就業者の確保・育成の取り組み等について効果が見えてきているところであり、評価できる。

水産業分野の令和6年度上半期の進捗状況及び強化の方向性については、この方向性で進めることについて異議はなく、次の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

【主な意見】

- (1) 事業戦略実行支援を受けて非常に助かっている。今後も現場の声も聞きながら、引き続き支援に取り組んでいただきたい。
- (2) 新規養殖候補地への企業誘致について、県内の養殖業者は餌の高騰で非常に苦しい状況にあり、地元以外の養殖業者の新規参入によって地元の養殖業者との間でトラブルが起こることも懸念されるので、慎重に取り組むを進めていただきたい。
- (3) 沿岸での水産資源が減る中、自営漁業者への支援として、マルチ漁業化への支援や沿岸域での漁場の整備が必要と思われる。マルチ漁業化への支援については、やる気のある漁業者が色々な漁業にチャレンジできるよう、新規就業者だけでなく、既存の漁業者に対しても支援をお願いしたい。
- (4) 産業振興計画には出てこないが「地産地消」の取り組みも重要と考えるので、取り組んでいただきたい。

商工業部会報告(産業成長戦略／商工業分野)

1. 専門部会での評価と主な意見

商工業分野では、第4期計画の取り組みなどにより各種指標が上昇傾向にあり、評価できるものの、労働生産性や賃金の全国との差はいまだ大きく、就業者数の減少が続くなど、人手不足感が強くなっている状況にある。

商工業分野の令和6年度上半期の進捗状況及び強化の方向性については、事務局案に基づき進めることに異議はなく、次の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

【主な意見】

(1) 生産性の向上

- ① 給料面では全国平均と比べて16%ほど下回っているという数字があったが、これを高めていくためにはDXや機械化、AIによる生産性の向上が必要。
- ② 先端技術を取り入れていくためには、社員のリスクリングが必要となるが、中小企業では2年間大学院に行かせることは困難。1日数時間でも、意欲のある方が能力を上げられるような環境があると良い。

(2) 新規学卒者等の県内就職促進

- ① 全国的な人手不足を背景に、県内大学にも大都市の企業から、かなり早い段階で採用情報が入ってくる。給料面にひかれて都市部に出る学生を留めることは難しいが、高知に残りたい学生は一定数いるので、県内企業もできるだけ早めに情報提供を行えば、もう少し県内就職が増えるのではないかと。
- ② 学生も就職にあたって情報収集しているので、県内企業には就活生に対するPRの方法を学んでいただき、自社の考え方や魅力をデータを交えながら伝えるなど、他県の企業に負けないように取り組んでもらいたい。
- ③ 高知県は、大都市に比べて初任給など待遇面では見劣りするが、豊かな自然や時間的な余裕、成長できる環境を提供できる点、可処分所得も必ずしも大きな差があるわけではない点などを、アピールしていく必要がある。

(3) 「共働き・共育て」の県民運動の展開について

- ① 企業の生産性を高め、DXも一定進めて、フレックスな勤務を可能とすることで、出口の部分で共働き・共育てを可能とするという全体のストーリーは理解できる。
- ② 男性の育児休暇については、連続して休むという選択肢だけでなく、時間休やフレックス勤務を可能とすることも必要。

観光部会報告(産業成長戦略／観光分野)

1. 専門部会での評価と主な意見

観光分野では、第4期計画の取り組みにより、これまでのセールス活動や観光施設の整備を官民一体となって継続してきたことが、観光博覧会「牧野博士の新休日～らんまんの舞台・高知～」や台湾との定期チャーター便の就航などといった追い風を最大限に生かすことにつながり、観光総消費額及び県外観光客入込数、外国人延べ宿泊者数は過去最高値となった。この点は、十分に評価できる。

観光分野の令和6年度上半期の進捗状況及び強化の方向性については、この方向性で進めることについて異議はなく、次の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

【主な意見】

(1) 連続テレビ小説「あんぱん」を生かした情報発信

- ① JRのアンパンマン列車と路面電車のアンパンマン電車がうまく接続するようをお願いしたい(現在は、日曜日のみ接続)。
- ② 非常に珍しい写真が撮れるということ、あざとくならないように上手な情報発信を考えていただきたい。
- ③ アジア圏ではアンパンマンは人気があり、現地のLCCは比較的若い客層が多いため「あんぱん」の情報をもっと発信するべき。

(2) キャッシュレス対応の整備

- ① 高知市内のタクシーはある程度はカード払いが対応できているが、それ以外の地域ではカード払いの対応はまだまだな状況。
- ② キャッシュレス対応ができる観光地であっても、ネット状況が弱く、キャッシュレス払いができないことがあり、改善が必要。
- ③ キャッシュレス対応は十分とは言えないので、購入機会の喪失を防ぐためにも、キャッシュレス対応を進めてもらいたい。

(3) インバウンド観光の対応(外国人材の活躍推進含む)

- ① 高知龍馬空港の設備や人的なところで時間がかかってしまうため、受入側のハード面とソフト面をしっかりと対応してほしい。
- ② 海外からみれば四国を1つとしてまとめて見ているため、四国4県がまとまってインバウンド誘致を進めるべきではないか。
- ③ 高知に来ている留学生をいかに地元の宿泊事業者や観光事業者とマッチングさせるかを念頭におき動いてほしい。
- ④ 台湾での高知の認知度がまだまだ低いため、現地大学からのインターンシップ生受入においては、学生に高知ならではの観光を知ってもらえるように仕掛けていくべき。
- ⑤ クルーズ船の寄港が増えており、帯屋町商店街等にもたくさんの外国人の方に来る。外国人の方にどういったニーズがあるのかを商店街の事業者にフィードバックすることで、おもてなしに繋がるのではないか。